

給て、うちころさせ給つゝ、いくらともなく人々ぬるに、關白にて昭宣公經基なげきていまは
すぢなし、位をおろし參らせんとおぼして、さりぬべき宮たち、又ちかき御門の御ぞうの源氏
に成給へるなどをみわりき給に、宮達は心えてよく見えんとつくるひきらめきあひ給へり、
つぎつぎ敷いみじきをこれもわろし、是もよく見えずとおぼして、小松の宮へ參上のよし
申させ給へば、さきかせ給ぬとてまばしありていれ奉りて、どみに出させ給はず、けだかく物
し給ふとおぼす程にぞいで給へる、ふるめき神さびて御なをしもき給はず、またりがほなる
さまにて何事にたちよらせ給ひたるぞとて、物の給ひたるさまもかくおはしませず、位につか
せ給たらんにかしこくおはしませしなると見奉り給て、かうくんと申給へば、いつばかりと問
せ給へば、程へばあしくさふらひぬべければ、あさて日もよく侍ふ、其日とてまかで給ひぬ、さ
てうちにまいり給へれば、木に人をのぼせてうちころしたるをけうじて人々笑われもわら
ひ入ておはしませず、いとあさまし、おとゞ申給、つれづれに侍らへば、くらべむまのせんとし侍
ふに、行幸して御覽すべきよし申給に、いみじうよろこばせ給て、いつばかりと仰らるれば、あ
さてと申給へば、よろこびていつしかとまたせ給ふ、其日になりぬれば、かんだちめ殿上人せ
うせうまゐりて、よき人々をばえりとめて、年老すゑあるまじき人々つかうまつりて、陽成
院といふ所に御興よせておろし奉りつゝ、さて後にぞ物くるはしく人をさへころさせ給て、世
のうせ侍ひぬべければ、おろしまゐらせつるぞと申かけけるを聞せ給てぞ、かなしき事かな
とてをうくとおめかせ給ひたりける、さてやがて昭宣公をはじめ奉りて、百官引つれて御
興ぐして、小松の宮へまゐらせ給ぬるめでたくいみじ、御興よせたるに、行幸には是にはのら
ぬ物を、今一にこそ、のれと仰られければ、おりさせ給ぬるのをせ奉りてさふらへば、此御興を
もてまゐりて侍ふと申させ給へば、さきかせ給ひてぞ奉りける、さ仰られけるをうへのさか